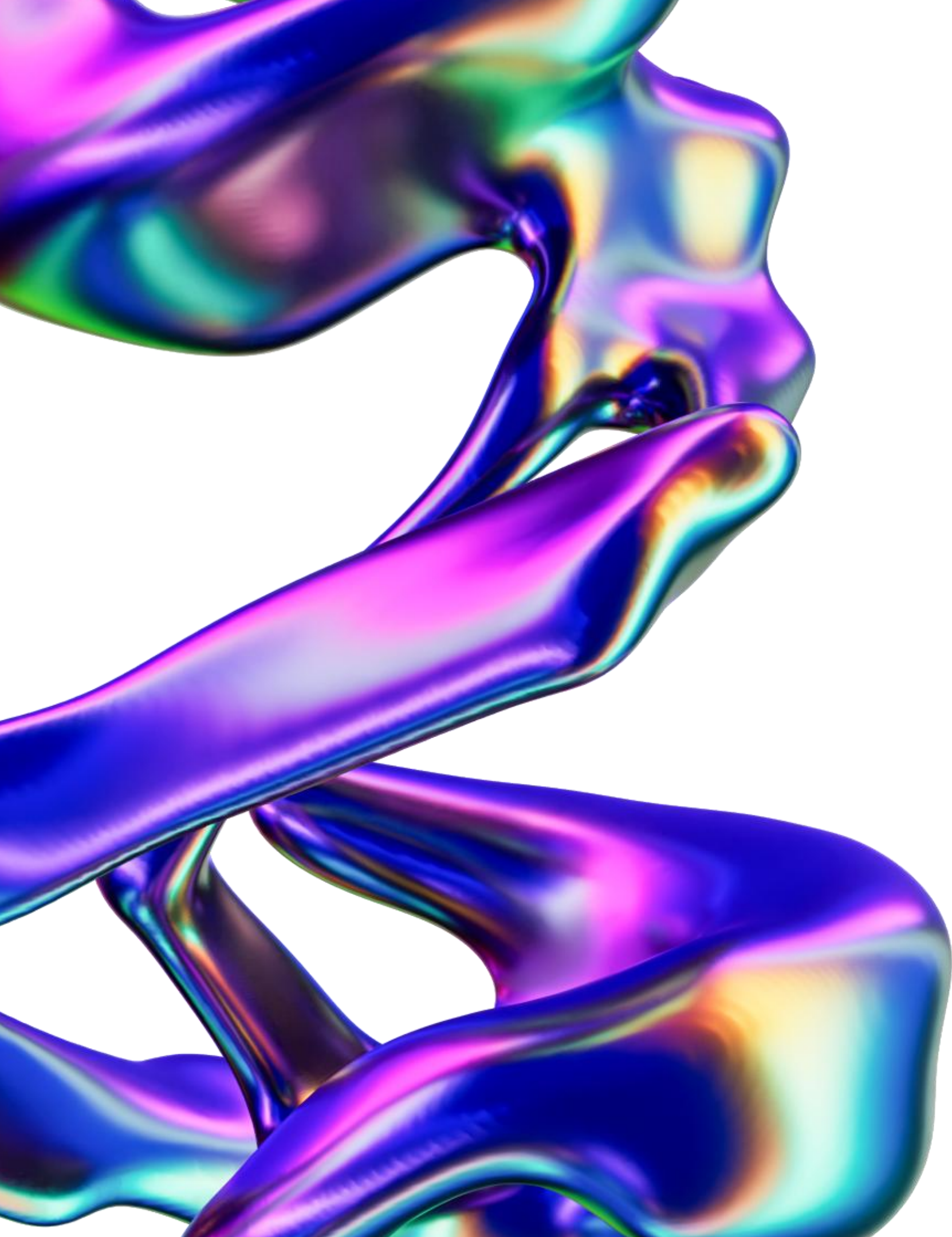


面接対策講座





今日学べる事

- 面接という就活の工程に対しての解像度が上がる
- エピソードトークの型を習得できる

今日の時間ではちょっとできない事

- 型の詳細な説明
- 模擬面接

宿題

- みなさんの具体的なエピソードを作ってみること

正気を保とう



就職活動は魔物です。
正気どう正気を失うのか少し見ていきましょう。

- ①面接は発表の場ではない
- ②相手の立場に立つ
- ③話の内容だけでは半分

①面接は発表の場ではない

では、何の場か。

ガチガチに台本用意しても、主導権が面接官にあるため、学生の子からしたらなかなか思うようにいかない。

うまくいかないパターンは

- ①エピソードの準備をしていない
- ②準備したがエピソードの深掘りに対応できない
- ③緊張でそれどころではないなど多岐にわたるけれど、

基本的には柔軟に回答を変化させないといけないコミュニケーションの場ととらえて、準備をする事。基本的にはガチガチ台本は却って柔軟性を失わせるので、幾つかのエピソードの要点を箇条書き程度に認識しておく準備が良いケースが多い。

②相手の立場に立つ

とはなにか。

基本的には人事は（特に1次面接あたり）は良く分からないものに投資はしない。

面接の質問に対しての回答は

PREP法＝Point（結論）→Reason（理由）→Example（例示）→Point（結論）

の型は汎用性が高い。

エピソード部分（RやE部分）では

STARモデル＝Situation（状況）、Task（課題）、Action（自身の行動）、

Result（結果）で準備して漏れがないようにすると◎

③話の内容だけでは半分

もう半分は何か。

コミュニケーションにはバーバル（言語）コミュニケーションとノンバーバル（非言語）コミュニケーションがある。

ノンバーバルって

表情、ハキハキ、態度、手足の動き、目線、姿勢…

みたいな言葉ではないけれど相手に伝わる情報がある。

ここにきちんと気が配れるように。

面接に適応する

- 『想定外』が我々を狂わせる
 - ⇒ 基本的な質問集については目を通す
 - ⇒ メモの魔力（巻末付録）、面接系書籍の一読
- 特定企業がある場合
 - ⇒ 採用基準を企業理念、パーパス、ミッション、ビジョンなどから仮定し、想定問答を立てる（人事に質問してもOK）

